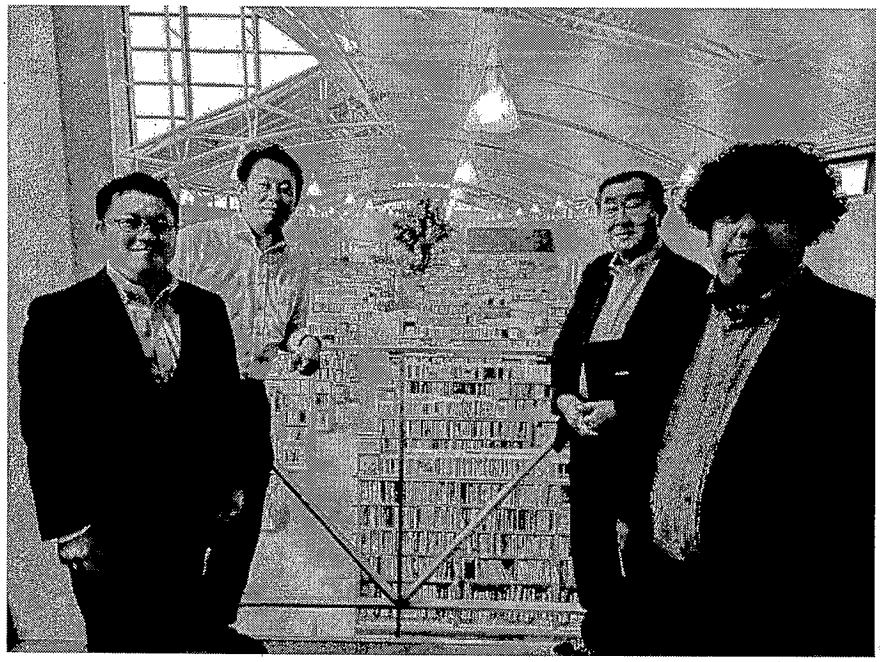
甲府市議会　会派「こうふ未来」
行政調査　報告書

日　時　2022年7月11日～13日
場　所　長崎県長崎市、佐賀県伊万里市、唐津市、福岡県福岡市
訪問地　○長崎市　『人口流出への対策と西九州新幹線長崎ルート開業に伴う人口定住策について』
○伊万里市『伊万里市民図書館の取組みについて』
○唐津市　『早稲田佐賀中学校・高等学校の誘致について』
○唐津市　『唐津市モーターボート競争事業から一般会計への繰出しについて』
○We Love 天神協議会　『We Love 天神協議会が推進する“まちづくり”について』

概　要　2022年7月11日から13日まで2泊3日の行程で、長崎県長崎市、佐賀県伊万里市、唐津市、そして福岡県福岡市で行政調査を行った。視察先と内容は、会派のメンバーで本市の課題を出し合い、上で記載した通り。

また新型コロナウイルス感染症の心配もあったが、感染拡大が落ち着いていた時期であったこと、また感染症対策を万全にして訪問した。



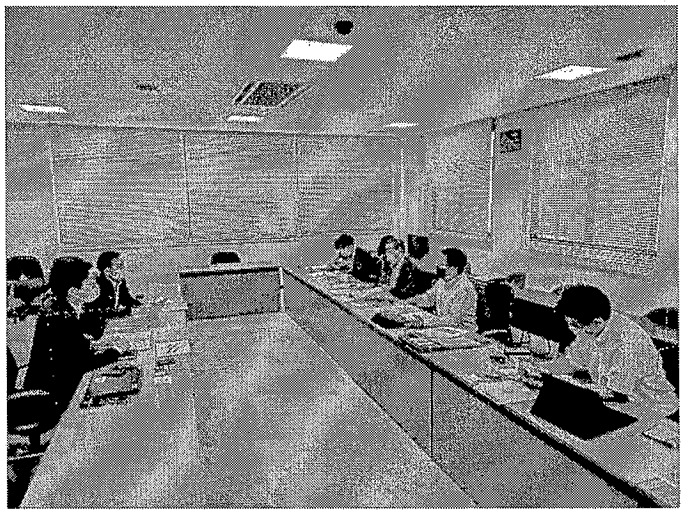
○長崎県長崎市

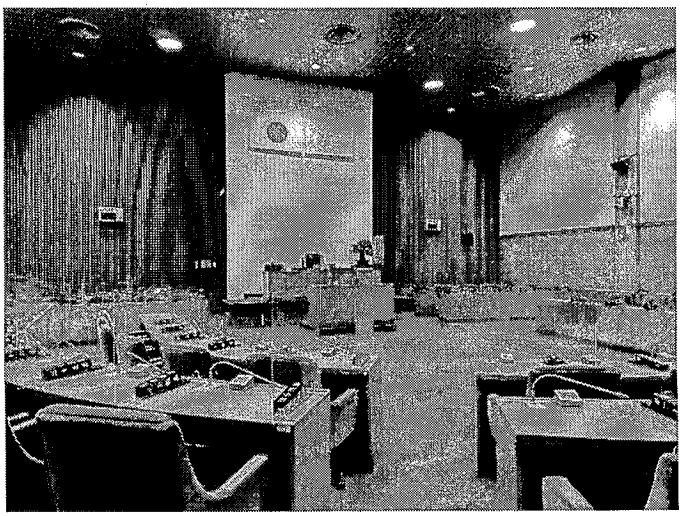
訪問日時　2022年7月11日
テ ー マ　『人口流出への対策と西九州新幹線長崎ルート開業に伴う人口定住策について』

（視察理由）

長崎市は、総務省が発表した2021年の人口移動報告で、転出者数が転入者数を上回る「転出超過」が2,194人となり、2,230人の転出超過だった広島市に次いで、全国の市町村別で2番目に多かった。社会減が大きく進む中、今年（2022年）の9月には西九州新幹線が開業する。

本市は2021年においては社会増を果たしたが、人口減少が進んでいく推計がある中、リニア中央新幹線が開業するにあたり、新幹線新駅が開業する長崎市の人口流出対策と人口定住策について調査することが本市の取り組みにおいて有益であると考えた。





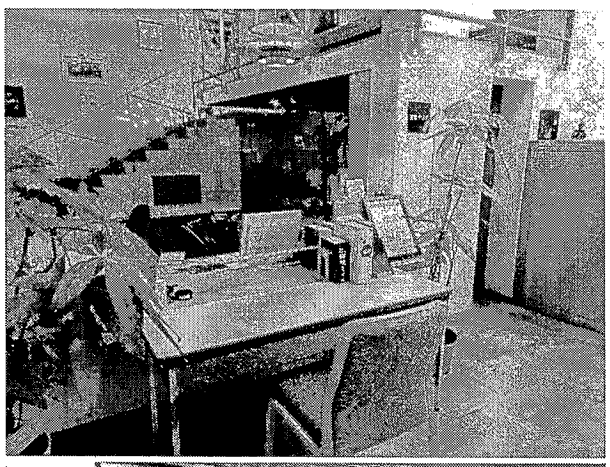
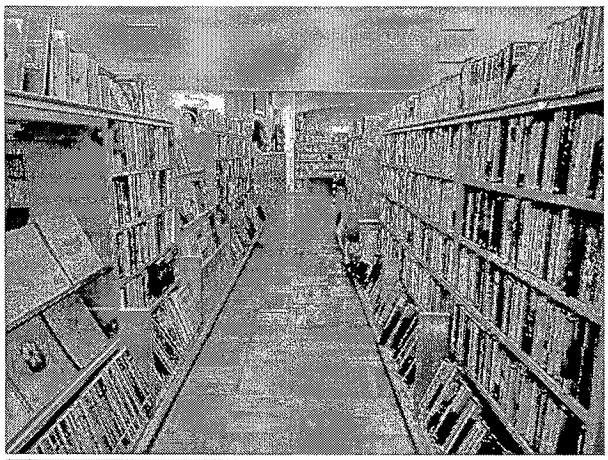
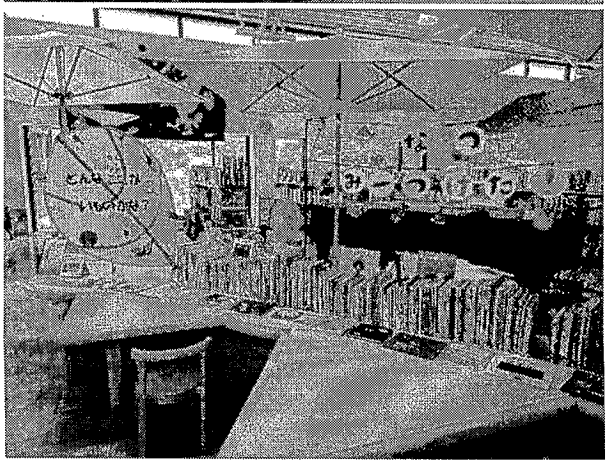
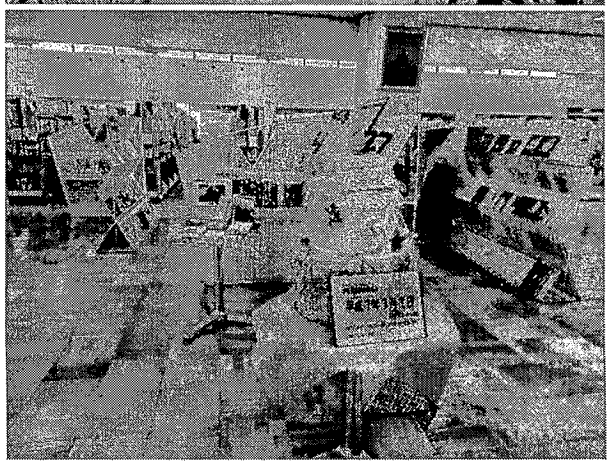
○佐賀県伊万里市

訪問日時　2022年7月12日
テ ー マ　『伊万里市民図書館の取組みについて』

（視察理由）

佐賀県には２つの特徴的な図書館がある。１つは、市民とともに作り、市民とともに歩んできた、今回視察した伊万里市民図書館、そしてもう１つは、日本で初めて民間書店が指定管理者として運営に参画した「TSUTAYA図書館」こと武雄市図書館である。伊万里市民図書館と武雄市図書館は、隣接している自治体の図書館であるにもかかわらず、まったく違う運営をされていることから、図書館のあり方を考えさせられる事例として注目されている。

今回は武雄市図書館は視察できなかったが「図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することをもっとも重要な任務とする。」とする「図書館の自由に関する宣言」に立脚した運営を行う伊万里市民図書館を調査することが、甲府市における図書館のあり方を考えた。

（調査概要）

伊万里市民図書館は、「伊万里をつくり 市民とともにそだつ 市民の図書館」を目標に、多くの市民が活動できる図書館として運営されている。例えば、子どもの本は手に取りやすいように本棚は低く、平積みになっていたり、本棚の間にも心地よく読書ができる空間があったり、利用者の視点で気配りされている。

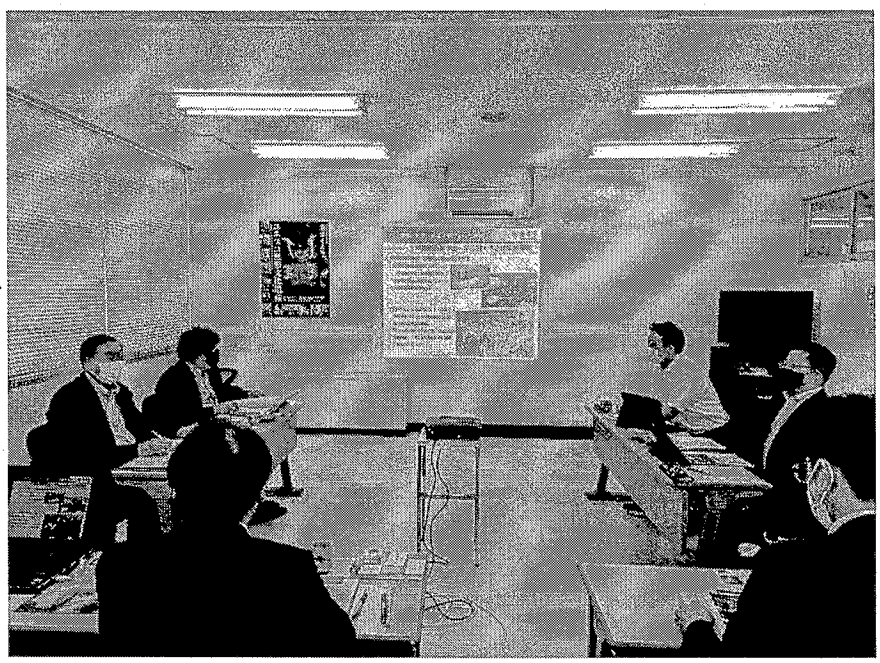
市民図書館との名の通り、市民に様々な用途で利用してもらうことを目指し、市民が使いやすいように、設計の段階から市民協働で作り上げた図書館は、市民活動の拠点となっている。レファレンス機能も充実させ、市民の調べ事や知の探究のサポートを親身に行ってくれる。まさに「市民とともにそだつ」の目標の通り、地域の知の集積、発信の場所としての公共図書館として機能していた。

甲府が目指すべき図書館は、いまでもなく伊万里市民図書館のような、地域の知的探求を支え、市民ともに、地域とともに成長していく図書館だと思った。

○佐賀県唐津市

訪問日時　2022年7月12日・13日
テ ー マ　『廃校利用の取り組みについて』
　　『唐津市モーターボート競争事業から一般会計への繰出しについて』

『廃校利用の取り組みについて』
（視察概要）
唐津市役所議会事務局において、政策部、教育委員会から、スライドにおいて説明をいただき、その後意見交換を行った。要旨は以下の通り。



（内容）
1．どのように誘致を進めたか
H17.8月に早稲田大学から佐賀県（大隈重信生誕地）に対して、中高一貫校の開設の意向有り。佐賀市、唐津市、神埼市三候補より、佐賀市に決定。
H22.4月早稲田佐賀中学校・高等学校開校。大学125周年の記念事業として、財団・学校法人による開校とした。

2. 進出した早稲田側のメリット（市が提案したメリットは?）

①県立唐津東校の跡地約 6ha の無償貸与による早期開校が可能

②周辺に反対がなく、住民との良好な関係が確保される

③中高生を育むのに、良好な教育環境

④早稲田大学第２代学長の天野為之の出身地であり、歴史的なつながりがある

⑤「福岡空港」「JR 博多駅」からのアクセスが良好

⑥周辺に約 2,600 名収容できる宿泊施設がある

3. 誘致の結果、唐津市にとって良かった点（市側のメリット）

①市外からの進学に伴う人口増（後述 4）

②経済効果は、H24 度試算算出額は直接効果で約９億円＋α

③早稲田大学・佐賀学園との連携事業として、「こども科学教室」「みんなの科学広場」「地域連携ワークショップ」を開催

④卒業生の入庁が、３名となった

4. 市外からの進学に伴う人口増加は生じたのか:

令和４年度の生徒数は 1,054 人、寮生数は 669 人となっているので、市外からの若者の転入は増加している。因みに、唐津在住の児童生徒の早稲田進学の実績は（中学：高校）R2=3:1,R3=4:0,R4=4:3 人となっている。

唐津市内には、県立の中高一貫校の唐津東があり、早稲田は難易度が高く、私立受験は佐賀市や福岡を受験する生徒が多いとのこと。

5. 誘致は市内学生の学力向上につながったのか

数字的にはデータはないが、公立と私立が共存することで、意識的には向上にベクトルは向いている。

早稲田佐賀学園・早稲田大学との連携事業は確実に子どもや住民の意識を変えていると思っている。

早稲田佐賀校の甲子園出場は、唐津市が大いに盛り上がったとのこと。

（考察）

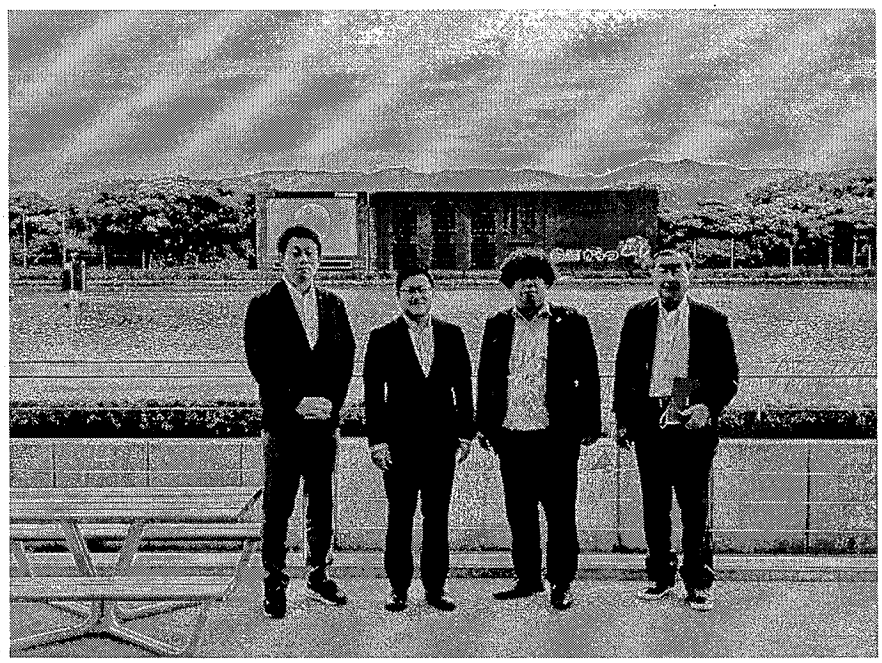
1. 伝統ある唐津市に、教育の場に私学という新しい風が入ることで、あらためて教育の在り方や、まちづくりの活性化にも大きく関わってきつつあることを感じた。

2. 連携事業は住民の意識を前向きにする力があり、定期的で継続性があることが望まれる。

3. 九州の観光地の面も生かしたさらなる国際的教育の充実が、唐津市の教育的魅力をアップさせると思われる。

『唐津市モーターボート競争事業から一般会計への繰出しについて』

昨今のコロナ禍で地方財政が逼迫する中、本事業において多くの繰り出しにより地元市民に還元している点で興味を持ち、視察を行うこととした。



ボートレースの売上は、その75%が的中者への払戻金となり、残りの25%から法定交付金、開催経費等を差し引いた額が施行者の収益金となる。施行者は、収益金を社会福祉の増進、医療の普及、教育文化の発展、体育の振興その他住民の福祉の増進を図るための施策を行うのに必要な経費の財源に充てている。

「以下２５%の内訳」

約2.8%→日本財団へ交付金。

約1.3%→(一財)日本モーターボート競走会への交付金、レースを主催する自治体から委託を受け、ボートやモーターの維持・管理、競走開催中の選手の管理、競走の運営など、レースの公正かつ安全な実施のために使う。

約0.2%→地方公共団体金融機構への納付金として、地方公共団体金融機構を通じて、上下水道の整備など、地域で役立てられる。

実費→開催経費

管理費、人件費、施設費、選手への賞金などに使われる。

残額→レースを主催する地方自治体の予算に組み入れられ、小中学校や体育館、美術館、公営住宅や病院などの公共施設の建設に使われる。

いわゆる、残額の一部がコロナ対策経費として使われることとなり、令和３年度は 30 億円の繰出金（累計約 778 億円）となっている。また当施設では令和３年 11 月から、２～３階をボートレース専用エリア、１階をキッズスペースやイベントホール等を備えたコミュニティエリアとして運営し、地域貢献も行っている。

今後、大阪府や長崎県などは IR（カジノを含む統合型リゾート）の建設が進む予定である。モーターボート事業においてもオンライン投票や電話投票が売り上げの９割を占めている今、カジノ法案解禁による公営ギャンブルの在り方も変わると考えられる。いずれにせよ人口減少、少子高齢化により地方財政は逼迫している中、より多くの外貨を稼ぎ、流動的な資金を増やす事は急務である。

○We Love 天神協議会（福岡県福岡市）

訪問日時　2022年7月13日
テ ー マ　『We Love 天神協議会が推進する“まちづくり”について』

We Love 天神協議会調査のきっかけは、岡島の雨宮社長への面会のときに、まちづくりの話の中で自身が福岡三越にいた頃に『WE LOVE 天神協議会』に関わっていたというお話を伺ったことでした。

福岡市には２つの大きなエリアがある。博多と天神でJR博多駅がある博多エリアに新幹線駅が乗り入れて、人の流れが変わってしまうという危機感から天神エリアを守ろうと皆が団結して 1955 年に出来たのが『WE LOVE 天神協議会』の前身である『天神発展会』だ。特徴としては商業者だけでなく企業も参加している。枠組みをこえた活動が早くから芽生えていたのが天神地区のまちづくりの特徴。

商業も発展しモータリゼーションの発達と九州各地からの利便性の向上で次々と新しい商業施設がオープンする。ハードの整備が進む中、新しいイベントが次々にスタートするなどソフト面（集客戦略）も充実してきて九州及びアジアからも人々が集まってきた。

しかし、それと同時に交通渋滞、自転車問題、ごみ問題といった都心ならではの課題も出てきた。これらを自主的に解決しようとする活動も 2000 年代になって目につくようになり、天神周辺地区で自治組織や NPO 団体などによるボランティア活動が活発になってきた。それらの動きを受けて、天神に関わる様々な人が一緒になってまちづくりを考えようと社会実験が行われ、それがきっかけとなり 2006 年『WE LOVE 天神協議会』が発足される。

（現状と課題）

天神地区はコンパクトな都市であるとともに鉄道やバスターミナルが充実し、九州最大の商業・業務地区を形成し、多種多様な機能都会的な刺激やの集積やヒト・モノ・コトの出会いによって多くの人々を惹きつけている。

その一方、モラル・マナーの低下や犯罪などの増加が懸念されている。また、「おもてなし」機能の不足や慢性的な交通渋滞、自転車の走行・駐輪のマナー低下交通機関の利便性の不足などが問題となっている。施設のターゲットが若者に偏重し、ファミリーや高齢者向けのサービスが不足になっておる。

（将来の目標像）

「現在の魅力を更に伸ばす」、「現在の課題を改善する」、「社会情勢の変化に対応する」の３つの視点から３つの目標像を設定。

1. 上質に洗練され、いつも賑わいがある『歩いて楽しいまち」
2. 環境にやさしく、だから誰もが『心地よく快適に過ごせるまち』
3. 変化に対応し、アジアの中で『持続的に発展するまち』

様々な課題がある中、交通渋滞への取り組み「フリンジパーキング」、地区内の建物更新への取り組み「天神ビッグバン」についてなどを伺った。いずれも行政がうまく関わり、現在の課題を改善しつつ変化に対応してうまく「天神ブランド」を維持いるように思えた。しかし、会費等資金面に関してはなかなか徴収に苦労している面も伺い、その点は甲府の商店街も同じなので共感出来た。

視察調査の最後になって、なんと山笠まつりを偶然観ることが出来た。事務所の前の通りで行われたのだが、我々が訪れた 13 時半にはこの通りを交通規制してお祭りを行うようにはとても思わなかったのだが、15 時をすぎるといつの間にか道は規制され、沿道には人垣が出来ていた。事務所が２階にあったため、階段からまつりの様子を見られたのはラッキーだった。

いよいよお祭りが始まると車道を埋め尽くさんばかりの山笠の装束をまとった男衆が１山に 200 人いるのではないかと思われる人の数。皆連日のまつりでしかもまつりの終盤に差し掛かっている頃だったいうのにものすごい気合の入りようだ。そして、もの凄いパワーを感じた。

地元にお人に聞くと博多っ子はこの日のために一年働くというのは本当のことだそうだ。皆、地元福岡を愛しているんだなと感じた。羨ましい限りだ。